

# SPAC

静岡県舞台芸術センター

# 秋の シーズン 2010

イコール  
平凡 = 幸せ、って本当ですか？

だったらなぜ、日本中に幸せがあふれていないの？

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター「秋のシーズン2010」では、6人の個性豊かな演出家が静岡に集結し、3ヶ月以上に渡り名作・注目作を次々に上演いたします。今回のラインナップでは、「特別じゃない人」が主人公になってゆくさまを通じて、演劇の不思議をご堪能いただけます。



**SPAC × 6人の演出家**

**2010年 9月 ≫ 12月**

※ 「秋のシーズン2010」は、9/4(土)の

『ユメミルチカラ -REVE DE TAKASE-』より始まりました。

主催：SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター

〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田 79-4

Tel.054-203-5730 Fax.054-203-5732

E-mail アドレス mail@spac.or.jp ホームページ URL http://www.spac.or.jp

## 100 円均一の世界、でいいの？

ちょっと調べてみたら、「普通が、かっこいい」という考え方が流布したのは、どうも1980年代の半ばくらいようです。たとえば、ドラマチックで珍しいものにあこがれるのは青くて、みんなが人生で経験するちょっとした恋とかが、実は十分にステキなんだ、という考え方。たまたまなのでしょうか、「大きな物語の終焉」ということが世界で言われ出したのもそのころです。

やがて冷戦が終わると、まるでその考え方の正しさが歴史的に証明されたような空気が蔓延して「人生に壮大なドラマを期待するのは時代遅れだ」なんてことすらわざわざ言い立てるまでもない、となったのかもしれない。

でも、いったんそうなってからは、「誰もが自分の人生の主人公だ」というテーゼはかつての輝きを失い、逆にこの世界の全員が「脇役」に過ぎないような、100円均一の世の中が地上を覆ってしまったような感じがします。

今年の秋のSPACは、「ドラマチックじゃない人」が主人公となる劇を特集してみました。観ていただきたいのは、「特別じゃない人」が、どうやって主人公になったのか？というところ。

100円均一の世界だから、誰でも100円で主人公になれるってことなのか？それとも、もしかして、世界にはもうひとつ別の相貌があるのか？

うーん、、、秋の劇場にヒントが隠されていることだけは、お約束します。



—— 宮城 聰

### 宮城 聰(みやぎ・さとし)

演出家。SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター芸術総監督。

1959年東京生まれ。90年、劇団「ク・ナウカ」を結成。アジア演劇の身体技法や様式性とヨーロッパのテキスト解釈を融合させた演出には定評がある。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。05年、第2回アサヒビール芸術賞受賞。海外公演も頻繁に行っており、06年10月にはパリのケ・ブランリー国立博物館クロード・レヴィストロース劇場のこけら落としとして『マハーバーラタ』を上演。

07年4月よりSPAC芸術総監督を務める。SPACでは07年11月に木下順二『巨匠』、08年5月に泉鏡花『夜叉ヶ池』、11月にシェイクスピア『ハムレット』、09年6月に唐十郎『ふたりの女』、10年3月にイブセン『パール・ギユント』、6月にオリヴィエ・ピイ『若き俳優への手紙』、さらにク・ナウカ時代からの代表作といえる『王女メディア』を上演。また自作の上演と並行して、SPAC主催の国際舞台芸術祭「Shizuoka 春の芸術祭」では世界各地から現代を鋭く切り取った作品を次々と招聘している。さらに「シアタースクール」や「小さなおとなと大きなこどものための夏休みシアター」「中高生鑑賞事業」など、静岡の青少年に向けた新たな事業を展開。「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。

### SPAC(Shizuoka Performing Arts Center)とは…

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センターは、専用の劇場や稽古場を拠点として、専属の俳優、専門技術スタッフが活動を行なう日本で初めての公立の文化事業集団です。芸術総監督宮城聰のもと、舞台芸術作品の創造と上演とともに、優れた舞台芸術の紹介や舞台芸術家の育成を事業目的として活動しています。

## 主要作品ラインナップ

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センターの「秋のシーズン2010」では、6人の個性豊かな演出家が静岡に集結し、3ヶ月以上に渡り名作・注目作を次々に上演。「特別じゃない人」が主人公になってゆく、演劇の不思議をご堪能いただけます。

■ SPAC 新作 フランス演劇界の知性派が、現代社会の問題を浮き彫りにする

『令嬢ジュリー』×フレデリック・フィスバック演出(フランス人演出家)

10月2日(土)3日(日)9日(土)10日(日)【10/1より高校生鑑賞事業あり】 静岡芸術劇場

■ SPAC 新作 なにげない日常が素晴らしく感じられる、アメリカ演劇名作中の名作—

『わが町』×今井朋彦演出(文学座)

10月30日(土)、31日(日)、11月6日(土)、7日(日)、13日(土)、14日(日)

【10/25より中高生鑑賞事業あり】 静岡芸術劇場

■ SPAC レパートリー 多くの人に愛されてきた SPAC の人気作を、最新の配役・演出で上演

『しんしゃく源氏物語』×原田一樹演出(劇団キンダースペース主宰)

11月27日(土)、28日(日)、12月4日(土)、5日(日)【11/30より中高生鑑賞事業あり】

静岡芸術劇場

■ 県民参加体験創作劇場2010 日仏の奇才と静岡県民が作り出す、新しい演劇のかたち

『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり～』

×パスカル・ランベール演出(フランス人演出家) ×大岡淳共同演出(SPAC 文芸部)

10月23日(土)、24日(日) 舞台芸術公園 野外劇場「有度」

以下の『ユメミルチカラ—REVE DE TAKASE—』は好評のうちに終了しました。

■ SPAC 新作 静岡の子どもたちの夢が、世界的なダンス作品になった

SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクト ※磐田市、伊豆の国市での県内公演あります。

『ユメミルチカラ—REVE DE TAKASE—』

×メルラン・ニヤカム振付・演出(カメルーン出身のダンサー)

9月4日(土)、5日(日) 静岡芸術劇場

12日(日) 磐田市竜洋なぎの木会館 23日(木・祝) 伊豆の国市長岡総合会館

ほかにも多彩なラインナップをご用意しています。

## ■ インド古典舞踊劇

『シヴァの結婚 ～神のころがなびくとき～』 10月16日(土)

『おさなごクリシュナを探す旅』 10月17日(日)

■ SPAC 俳優による朗読とピアノの午後 11月20日(土)、21日(日)、12月18日(土)、19日(日)

## ■ 有度サロン公演

『早池峰岳神楽』(はやちねたけかぐら) 12月4日(土) 出演:早池峰岳神楽保存会

『リア王』(4カ国語版) 12月11日(土) 演出:鈴木忠志、出演:SCOT

■ 有度サロン公開講座 12月5日(日)、12日(日)

## 関連企画

SPAC では、演劇作品の創作・上演とともに、さまざまなアウトリーチ活動を行っています。

「SPAC 芸術街道★リーディング・カフェ・ツアー」「ロダンと朗読とピアノの午後～初秋の夢のひとつ～」

「宮城聰と俳優たちが選ぶ21冊の本フェア」「国民読書記念フォーラム2010!しずおか ゲスト出演」など

SPAC 新作

# 令嬢ジュリー

フランス演劇界きっての知性派演出家フレデリック・フィスバック、静岡初登場！  
ジュリーの運命が急速に動き出す、取り返しのつかない夏至祭の一夜！  
最先端の舞台美術や一般市民の参加も話題—。

演出：フレデリック・フィスバック

作：アウグスト・ストリンドベリ

美術：ローラン・P・ベルジェ

出演：たきいみき、阿部一徳、布施安寿香

コロス：青島美和、秋山淑恵、上山翼、串田仁美、佐藤友紀、杉浦南美子、蛸島慎司、仲村暢人、成田颯太、宮下泰幸、村上厚二、八幡みゆき、米川貴久、大内米治 (SPAC)、若宮羊市 (SPAC)



令嬢ジュリー  
(たきいみき)



ジャン  
(阿部一徳)



クリスティン  
(布施安寿香)

## 公演概要

---

### 一般公演

10月2日(土)16:30 開演、3日(日)14:00 開演

10月9日(土)16:30 開演、10日(日)14:00 開演

### 高校生鑑賞事業(静岡県内の高等学校のための招待公演)

10月1日(金)14:00 開演、7日(木)13:30 開演、8日(金)13:30 開演

会場：静岡芸術劇場

上演時間：90分

■ 4,000円／ペアチケット(2枚)7,000円／大学生・専門学校生 2,000円／高校生以下 1,000円

## フィスバック × SPAC × 令嬢ジュリー

『令嬢ジュリー』は、この秋の SPAC の新作です。この戯曲はスウェーデンの作家ストリンドベリによる1888年の作品で、自然主義戯曲の代表的なものと考えられています。フランス現代演劇界でもっとも注目を集める演出家、フレデリック・フィスバックがこの作品を演出します。この作品では、1年でもっとも日の長い夏至祭の夜を舞台に、伯爵令嬢ジュリーと召使いジャンの階級を越えた関係が描かれます。夢と現実のはざまに揺れ動く二人の会話を通して、現代社会に潜む問題が浮かび上がることになるでしょう。この作品の最後に主人公ジュリーが選ぶ意外な結末は、現代日本に生きる私たちにとっても、深刻な問題提起となるはずです。

### あらすじ

夏至祭の夜。令嬢ジュリーは台所にいる召使いジャンのもとを訪れる。ジャンには同じく召使いのクリスティンという許嫁がいたが、ジュリーはお嬢様としての特権を行使して、ジャンに自分を楽しませるように強要する。二人はダンスを踊ったり、お酒を飲んだり、しばし愉快的時間を過ごすのだったが、昔から憧れていたと口説くジャンにのせられたジュリーは、後戻りできない情事におよんで…。

## フレデリック・フィスバックが『令嬢ジュリー』を通して描く現代社会とは？

『令嬢ジュリー』では、近代的な男女関係や雇用者と被雇用者の関係が逆転することになります。作者のストリンドベリは、一人の女と一人の男のミクロな関係を通じて、家族という概念自体が崩壊しようとしている社会——私たちがいまだに生きている社会——を描いている……フィスバックはそう考えているようです。

### 「格差」が広がる日本。今、この作品が持つ力とは何だろう？

フレデリック・フィスバックへのインタビューより

この作品はさまざまなレベルで現代につながっています。

私にとって、現代の雇用者と被雇用者との関係は、作品の主人と召使いの関係で考えられます。私は日本社会に詳しいわけではありませんが、演劇界の知人と話していると、ロストジェネレーション世代の人は、両親が戦後の経済的な大発展を支えたことや、日本社会というものが今の時代まで建て直されたという流れに疑問を投げかけた人たちでもあるだろうと思います。両親の世代のように、会社に入って、自分の生活家族を犠牲にしてきた人たちに対して、問いかけをしたのだという風に理解しています。

失業という問題が裕福な社会において問いかけていますが、これは単純なことではないと思います。職選びは人生との関係を選ぶことになるので、「この会社に25歳で入って65歳までこのなかでいいのか」、「私の人生はこれでいいのか」という問いかけでもあります。多くの若い世代が感じていることだと思います。この疑問は「私のアイデンティティは何か」という別のやっかいな課題につながってきます。

社会的な疑問、経済的な疑問を越えて、なにが世界を動かせるのかといえば恋愛感情であったり、欲望であったりする、とストリンドベリが提示しているようにも思えます。死と生と愛——。演劇における大きな問いかけはこれに集約されるのではないのでしょうか？ この作品のなかで何が悲劇的かと言えば、登場人物には展望が見えない。ひとりでは展望が見えず、ふたりでやっと展望が見えているときもあるのですが、そのふたりも波長をあわせることができない、コミュニケーションをとることができない、ということが描かれていると思います。ときに本心からふたりで建設的に生きて行こうと思うのですが、それができない、そんなことが描かれています。

インタビュー全文は SPAC ホームページでご覧いただけます。

[http://www.spac.or.jp/10\\_autumn/julie](http://www.spac.or.jp/10_autumn/julie)

〈演出家プロフィール〉



**フレデリック・フィスバック** Frédéric Fisbach

演出家。1966 年生まれ。パリ国立高等演劇学校(コンセルヴァトワール)に学んだ後、ジェラルド・フィリップ劇場(サン＝ドニ)、ナンテール・アマンディエ劇場で、俳優、演出家として活動。代表的な演出作品に『マリアへのお告げ』『東京ノート』『ベレニス』『屏風』『舞台は夢』オペラ『アグリッピーナ』など。2002 年よりパリ近郊のスタジオ・テートル・ド・ヴィトリーのディレクターに就任。2007 年度アヴィニヨン演劇祭の提携アーティスト。2006～2010 年 2 月、新たな芸術・文化創造の試みの場としてパリ市に設立された「スタジオ104」の初代ディレクターを務めた。フランス現代演劇で最も注目される演出家のひとりである。

**原作には登場しない群衆(クロス)** 一般応募者から選ばれた若き群衆に注目

演出家フレデリック・フィスバックはこの作品をとりまく舞台外の状況に注目しました。そこで、これまであまり語られることのなかった、祝祭を行う群衆を舞台に登場させることにしました。令嬢ジュリーと召使いジャンを悲劇的な結末に押し込んでいく群衆に声を与えることは、この古典戯曲に新しい光を投げかけることになるでしょう。原作にはない、この群衆として出演する人々は、一般応募によって選ばれました。静岡県内はじめ首都圏からも集った若い感性が舞台を盛り上げ、作品に奥行きを与えます。



クロス稽古風景より

## 世界最先端の舞台美術

現代的な空間に置き換えられた令嬢ジュリーの屋敷



7月30日劇場仕込み風景より

舞台美術を手がけるのは、美術界・建築界で世界的に注目されるローラン・P・ベルジェ。建築家・妹島和世がディレクターを務めた 2010 年ヴェネチア・ビエンナーレ建築展にも招聘され、現在ますますその活躍がめざましいアーティストです。

今回の舞台美術は、劇場のなかにもうひとつの建築が建っているような驚きを与えます。19世紀末の令嬢ジュリーの屋敷は、白く切り取られた現代的な空間に置き換えられます。自然主義と象徴主義の両方の面からアプローチされてきたという『令嬢ジュリー』の演出史をふまえ、このふたつの考え方が両立しうる空間が模索された結果、デザインされたものです。

### 〈美術家プロフィール〉

**ローラン・P・ベルジェ** Laurent P. Berger

アーティスト。パリ在住。1998 年に国立高等装飾美術学校を卒業。映画、インスタレーション、彫刻、建築、パフォーマンス、ビデオ、写真、グラフィックデザインの要素を活用しながら、「観客」「時間」「空間」の調和を重視した、新しい表現と知覚のシステムづくりを作品のなかで展開している。2004 年、ダン・グラハム、トニー・オースラーとの共同プロジェクト『Don't Trust Anyone Over 30』に参加し、同企画は舞台作品として 2005 年にウィーン・フェスティバルとドイツ国立歌劇場などで上演された。また演劇、ダンス、オペラの分野でも舞台美術や照明を担当し、フィスバック以外にもロバート・ウィルソンなどさまざまなアーティストと共同作業をしている。

---

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

SPAC 新作

# わが町

世界中で愛されてやまないソーントン・ワイルダーの傑作戯曲！

演じ手として『わが町』を知りつくした実力派俳優・今井朋彦による新演出！

演出：今井朋彦

作：ソーントン・ワイルダー

訳：森本薫

音楽：松本泰幸

出演：石井萌水、いとうめぐみ、  
大内智美、大高浩一、奥野晃士、  
木内琴子、貴島豪、すがぼん、  
武石守正、館野百代、保可南、  
野口俊丞、本多麻紀、牧山祐大、  
三島景太、吉植荘一郎、吉見亮



稽古風景より(2010年9月)

## 公演概要

### 一般公演

10月30日(土)16:30開演、31日(日)14:00開演

11月6日(土)16:30開演、7日(日)14:00開演

13日(土)16:30開演、14日(日)14:00開演

### 中高生鑑賞事業(静岡県内の中学校・高等学校のための招待公演)

10月25日(月)14:00開演、29日(金)13:30開演

11月2日(火)13:30開演、4日(木)13:30開演、5日(金)12:30開演

9日(火)13:30開演、10日(水)12:00開演、12日(金)14:00開演

会場：静岡芸術劇場

上演時間：未定

■ 4,000円／ペアチケット(2枚)7,000円／大学生・専門学校生 2,000円／高校生以下 1,000円

★静岡県内の中学生は、30名までご招待あり。(お問い合わせ・お申込みは SPAC チケットセンター TEL.054-202-3399 まで)

## 今井朋彦×SPAC×わが町

1938年のブロードウェイでの初演以来、アメリカ戯曲の中でも世界で最も上演回数が多い作品といわれ、ピューリッツァー賞受賞作でもある戯曲『わが町』。この名作を、文学座所属で舞台にテレビにひっぱりだこの実力派俳優・今井朋彦が演出します。『わが町』は今井朋彦の俳優としての実質的な初舞台作品でもあります。数多くの舞台に立ってきた彼の原点とも言える作品です。演じ手として『わが町』を深く理解した彼だからこそ実現できる演出が期待されます。今井は本番の約2ヶ月前より静岡に滞在し、オーディションによって選出された17名の俳優たちとともに稽古に取り組んでいます。

### 〈演出家プロフィール〉

#### 今井朋彦(いまいともひこ)

文学座座員。俳優として劇団内外を問わず数多くの舞台に出演。

第31回紀伊國屋演劇賞個人賞、第9回読売演劇大賞優秀男優賞を受賞。またTV・映画の分野でも精力的に活動中。2001年からは舞踊家木佐貫邦子氏に師事。同氏とのコラボレーション(『浸食しあう領域』2005年)を始め、パパ・タラマラへの出演など身体表現への取り組みも行っている。演出家としての活動も積極的に続けており、主な演出作品として『蝶のやうな私の郷愁』(作/松田正隆)、『星の王子さま』(作/寺山修司)など。

—主な出演作品—

舞台:『テラ・ノヴァ』(文学座)、『コペンハーゲン』『ヘンリー六世』(新国立劇場)、『エレファントマン』『炎の人』(ホリプロ)、『国盗人』『友達』(世田谷パブリックシアター)、『ミュージカル・蜘蛛女のキス』(梅田芸術劇場)、『一初恋』(三鷹市芸術文化センター)

TV:『新選組!』『風林火山』(NHK)、『HR』『古畑任三郎ファイナル』(フジ)

映画:『交渉人真下正義』



写真撮影: 西山英和 (PROPELLER.)

### あらすじ

『わが町』の舞台は、「グローヴァーズ・コーナース」という架空の町。第一幕と第二幕では、お隣同士である医師のギブス家と新聞編集長のウェブ家を中心に町の人々の生活が淡々と描かれる。やがてギブス家の長男ジョージとウェブ家の長女エミリが恋に落ちて結婚。第三幕は、お産が元で死んでしまったエミリが、すでに死んでいる町の人々と墓場で会話をする場面。「死者の視点」から、生きた人間の生活を見たエミリは、人生の残酷さや素晴らしさについて、あらためて思い知ることになる…。

### “生きてるって、苦しかったわね…そのくせとてもよかった。” 「死者の視点」から見た人生

人が生まれ、恋をして、結婚し、子を産み育て、やがて死んでいくという、当たり前といえば当たりの人生——。作者のソーントン・ワイルダーは、「死者の視点」を通して人生を見せることで、観客に「生きていること」を意識化させようと試みています。エミリの台詞に「生きているうちに人生を理解する人なんているんでしょうか？」というものがあります。人は生きているときには「生きていること」の喜び、いとおしさに気づくことが難しい。観客はその“気づき”へと導かれることとなります。今井朋彦演出による SPAC 版『わが町』においても、この「死者の視点」は演出上の重要な要素となっています。この舞台を観終わった後に、観客の皆さんの「生と死」に対する意識が少し変化する……そうした感動を持ち帰ってもらえるように、稽古のなかで試行錯誤を重ねています。

## 「生きる」ことの可能性や広がりを感じてもらえたら嬉しい

今井朋彦へのインタビューより

—俳優として、演出家として毎日忙しい日々を過ごしていらっしゃると思いますが、演劇の仕事の醍醐味は何ですか？

今井:つまりは人を知ることでしょうか。共演者やスタッフと知り合う。彼らの特徴や癖を知る。戯曲を通して作家を知る、その人間観を知る。舞台を通してお客様を知る。そうしたことがまた次の仕事への栄養になる…。結局他の仕事とあまり変わらないようにも思います。

—演出をするにあたって、とくに影響を受けた演出家がいらっしゃいましたら教えてください。またその演出家から何を学んだと思いますか？

今井:これまで40人近い演出家と仕事をしてきましたが、それぞれから影響を受けているのでこの人！というのは難しいですね。学んだこともさまざまです。でもそれらを集約してみると、そこに共通しているのは「自由」ということかもしれません。俳優自身が自由になること、舞台上が自由になること、逆にそれを阻害するものとは何か？…そういうことを学んだ気がします。

—『わが町』は今井さんが所属されている文学座の養成所でも学ばれると聞きました。今井さんにとって『わが町』とはどういう作品ですか？

今井:この作品は実質的に私の初舞台でしたから、強い印象は残っています。出番前に本気で「逃げよう」と考えたこととか(笑)。とはいえ、あの時の『わが町』は一研究生、一俳優の立場から見たものでしかなかったとつくづく思います。いま演出するために取り組んでいる『わが町』は、また別物と言っていいかもしれません。

…(中略)…

よく「生死の境」などと言いますが、その「境」は普通とんでもなく大きなものだと思われています。でも『わが町』には、生きているか死んでいるかには確かに違いがあるけれど、どちらにもそれぞれの良さがあり、また役割があるんだという冷静な希望がある、そんな風に感じます。

インタビュー全文はSPACホームページでご覧いただけます。

[http://www.spac.or.jp/10\\_autumn/ourtown](http://www.spac.or.jp/10_autumn/ourtown)

## 『わが町』稽古スケジュール

---

第一期:8月10日～9月7日 舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

第二期:9月21日～10月24日 静岡芸術劇場・リハーサル室

### ■稽古見学会を開催しました。

日時:8月21日(土) (1)13:00～14:30 (2)15:00～16:30 計2回開催

会場:舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」



稽古風景より(2010年9月)

8月21日に『わが町』の稽古見学会を行いました。SPAC 芸術総監督宮城聡による「秋のシーズン 2010」のラインナップ紹介や、今井朋彦と宮城聡の対談など、盛りだくさんの内容にご好評をいただきました。

稽古見学会の様子や写真・映像、および日々の稽古や俳優インタビューなどについては、下記の『わが町』ブログでご覧いただけます。

ブログ:『わが町』のちょっといい話 <http://spac.or.jp/blog/?cat=25>

---

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail [mail@spac.or.jp](mailto:mail@spac.or.jp)

SPAC レポートリー

# しんしゃく源氏物語

光源氏が惚れた唯一の不美人・末摘花すえつむはなの物語！

SPAC の代表作であり、演劇を志す学生たちにも馴染みの深い本作品――。

多彩な演劇活動で人々を魅了する原田一樹が最新の配役・演出で挑む！

演出：原田一樹

原作：榊原政常

出演：池田真紀子、石井萌水、木内琴子、たきいみき、  
舘野百代、布施安寿香、本多麻紀

## 公演概要

### 一般公演

11月27日(土) 16:30 開演、28日(日) 14:00 開演

12月4日(土) 14:00 開演、5日(日) 14:00 開演

### 中高生鑑賞事業

(静岡県内の中学校・高等学校のための招待公演)

11月30日(火) 13:30 開演、

12月1日(水) 13:30 開演、2日(木) 13:30 開演、

3日(金) 14:00 開演、6日(月) 14:20 開演、8日(水) 13:30 開演

会場：静岡芸術劇場

上演時間：90分

■ 4,000円／ペアチケット(2枚)7,000円／大学生・専門学校生 2,000円／高校生以下 1,000円

★静岡県内の中学生は、30名までご招待あり。(お問い合わせ・お申込みは SPAC チケットセンター  
TEL.054-202-3399 まで)



原田一樹 × SPAC × しんしゃく源氏物語

原田一樹は、多彩な活動で知られる演出家です。自身の劇団での創作活動にとどまらず、地方の市民劇団でも数多くの企画・演出を手がけ、地域の人々と交流を続けています。「SPAC 秋のシーズン 2008」では、『ドン・キホーテ』を演出し、好評を博しました。

SPAC 製作の『しんしゃく源氏物語』は、1998 年の初演時と、翌年 99 年に舞台芸術公園野外劇場「有度」にて男性によるキャストで上演された後、現在の女性版で公演を重ねてきました。2002 年には北京で開かれた「第 9 回 BeSeTo 演劇祭」に日本の代表作品として参加し、静岡では 5 年にわたり中学生鑑賞事業として上演されています。今回は、2 年ぶりの静岡芸術劇場での上演となります。

あらすじ

末摘花(すえつむはな)の御殿。末摘花は古風な教育を受けた頑固で一途な姫。光源氏を慕う心は強く、いつ戻ってくるのかもわからない源氏のことばかり思って暮らしている。そのせいで世間から見放されてしまった感のあるこの屋敷はボロボロで、食事も質素、没落が目に見えるような有様。そんな生活に耐えかねて、今日もまた一人、侍女がこの屋敷を逃げ出して行く。残された侍女たちは気が気でないが、末摘花は彼女たちを尻目に泰然自若として騒がず、今日も源氏のことを想っている。源氏は必ずもどってくる、と。一体いつ、本当にもどってくるのだろうか…。

<演出家プロフィール>



原田一樹 (はらだ・かずき)

演出家。劇団「キンダースペース」主宰。

85年劇団キンダースペースを創立、都内劇場、埼玉県川口市のアトリエを拠点に活動。(財)舞台芸術財団演劇人会議評議委員。90～91年ACC(Asian Cultural Council)の招聘によりニューヨークに滞在。劇団公演の他、多数の外部演出を手がけ、地域でのワークショップや高校演劇の審査員、石川県七尾市はじめ各地市民劇団の公演企画・演出等、幅広く手がける。

主な作品、E.オニール『喪服の似合うエレクトラ』他。チェーホフ『プラトノフ』他。近代短編小説アンソロジー・芥川篇・小泉八雲篇・太宰治篇・他。イプセン『野鴨』『ロスメルスホルム』他(以上劇団キンダースペース公演)、『しんしゃく源氏物語』、『竹取物語』、『サド侯爵夫人』(SPAC)、『桜幻想』(蘭このみスペイン舞踊カンパニー、芸術祭大賞受賞)、『九番目のラオ・ジウ』、『銘々のテーブル』(俳優座)、『天国までの百マイル』、『月の真昼間』、『大つごもり』(文化座)、『藪の中から芥川』(青年劇場)他多数。

## “人が人を想うこと”を問い直す

『しんしゃく源氏物語』は、高校の教師であった榊原政常によって、高校演劇部のために書かれました。誰もがその名前を知っている『源氏物語』をもとに、現代の視点から書き上げられた戯曲です。ファルス・センチメンターレ（涙もろい喜劇）という副題の打たれたこの作品は、ひたすら光源氏を待ち続ける、たぐいまれな不美人・末摘花<sup>すえつむはな</sup>の一途な思慕を描いています。三つの季節—冬、夏の終わり、そして春にかけて、時の移ろいとともに変化する人々の心理や、打算的に右往左往する周囲の人々の滑稽さ、またその情念などが、ユーモラスに展開していきます。

原田一樹によって躍動感溢れる舞台に仕上げられた『しんしゃく源氏物語』—。子どもから大人まで、多くの方々に“人が人を想う”ということについて、あらためて考える機会を提供いたします。

### 演劇の持つ底知れない魅力にまだ気づいていない

原田一樹へのインタビューより

—前回の上演から2年が経ち、さらにパワーアップした『しんしゃく源氏物語』が期待されますが、再演にあたって特に力を入れたいことは何ですか？

原田：今回はキャストも半分近くが入れ替わります。舞台という場所は、やはり俳優の生活史も投影される空間だと思っています。演出はまず俳優一人ひとりの価値観と出会い、せめぎ合い、その上で刺激的で劇的な時間を紡がなければなりません。新しい出会いを大切にしたいと感じています。そして何よりも、普遍的なテーマである、人が人を想うということ、この根本に立ち返りたいと考えています。

—原田さんが今まで演劇をつくり続けてきたのはなぜですか？ 演劇の魅力とは何でしょう？

原田：演劇の持つ底知れない魅力にまだ気づいていない、という一言に尽きます。例えば、どうアドバイスしてもどうしようもならない俳優が居ます、彼(彼女)も悩んでいます。ある日、突然その演技が感動的なものになります、理由は全く分かりません。なんでもないただの椅子があります、舞台の片隅に置くことにしました。そして突然、その椅子が舞台で行われる全てを観ていて、我々の心の全てを捉えている存在だったと気がつきます。間が埋まらないので挟んでいた虫の声があります。音響プランナーも演出のまま俳優の息に合わせて舞台に流していました。ある日その虫だけが、物語の初めから、私たちの誰もその声を耳にする以前からそこに居て、主人公の心の深層に触れていると気がつきました。例えばそんなことです。

インタビュー全文は SPAC ホームページでご覧いただけます。

[http://www.spac.or.jp/10\\_autumn/genji](http://www.spac.or.jp/10_autumn/genji)

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

# SPAC 中高生鑑賞事業とは

## ■ SPAC 中高生鑑賞事業

SPAC-(財)静岡県舞台芸術センターでは、宮城聡芸術総監督のもと、特に舞台芸術を通じた人材育成・教育事業に力を注いでおり、劇場を広義な教育機関として捉え、静岡県内の中高校生にSPACの公演を無料で鑑賞する機会を提供しています。子どもたちにとっては、本格的な劇場での演劇体験とともに、作品鑑賞後の舞台俳優等との交流を通して、県立の劇団であるSPACの活動と、「ここ静岡で文化が創造され、発信されていること」を深く知る機会となります。

SPACでは静岡県の中高校生が6年間の在学中に一度は静岡芸術劇場でSPACの舞台を鑑賞する機会が得られるように、年間100ステージ(1公演350人鑑賞、静岡県の中高校生の1学年の数は約35,000人)の中高生鑑賞事業の実施を目指しています。昨年度は年間10,000人を超える中高生が鑑賞しました。今年度も「SPAC秋のシーズン2010」と2011年1月～3月にかけて上演される『ドン・ファン』で10,000人を超える中高生が鑑賞する予定です。

中学生鑑賞事業は静岡県の事業として2003年度から実施しておりすっかり定着してきましたが、さらに2008年度からは高校生も事業の対象に加えるSPAC独自の鑑賞事業がスタートいたしました。週末に一般向け公演、平日に鑑賞事業をロングランで行なうという、専属劇団を擁する公共劇場であるSPACだからこそ実現した事業です。感性が揺れ動く多感な時期に、舞台芸術を鑑賞することは、若者にとって大きな刺激となり、学校教育だけでは得られない貴重な体験となるのではないかと期待されます。

## ■ 鑑賞料金 無料

中高生鑑賞事業で鑑賞する中高校生及びその関係者(引率者)は無料となります。

## ■ 交通費(学校⇄静岡芸術劇場)

中学生:バスを借り上げる場合、中学校の負担はありません。

10公演分を静岡県が負担し、それ以外はSPACが負担します。

高校生:バスを借り上げる場合、1台当たり5万円を上限として、2分の1をSPACが負担します。

## ■ 「SPAC 秋のシーズン2010」中高生鑑賞事業の参加校 ※掲載順は鑑賞日の早い順

●『令嬢ジュリー』:静岡高校 346名、城南静岡高校 267名、清水東高校 110名、静岡市立高校 73名

●『わが町』:静岡商業高校 260名、西奈中学校 128名、西遠女子高校 213名、城南静岡中学校 13名、川根高校 220名、袖野中学校 76名、下田南伊豆高校 126名、松崎高校 112名、静清高校 22名、静岡市商高校 202名、稲取高校 128名、科学技術高校 397名

●『しんしゃく源氏物語』:清水商業高校 220名、城ヶ崎分校 124名、富士見高校 303名、下田中学校 92名、静岡東高校 340名、静岡城北高校 300名、静岡農業高校 260名、三島高校 114名

○全 24校、計 4446名

■ 2009 年度鑑賞事業公演『ドン・ファン』に寄せられた生徒さんの感想より

- 静岡にこんな素晴らしい劇団があることを知らなかったが、初めてみて、誇りに思う。
- 「人に何かを伝えたい」という気持ちがとても大切なことなのだと思います。
- 『ドン・ファン』の物語も、俳優さんたちやオマール・ポラスさん(『ドン・ファン』演出家)の話も、自分を考えるきっかけになった。
- 生徒も 2 時間熱心に観劇できるほど「生」は素晴らしいと思いました。(教員)
- 本格的な劇場で観劇することは、生徒にとって一生に一度となる者もいると思うので、とても良い機会だったと思います。(教員)

---

※本事業についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

SPAC 県民参加体験創作劇場 2010

# 世界は踊る～ちいさな経済のものがたり～

日仏の気鋭の演出家が競演！ 秋の野外劇場で、  
フランス人俳優と静岡県民による、プロとアマチュアのコラボレーション！

既存の様式を越え、新しい演劇手法で描く、世界経済史！

企画・構成: パスカル・ランベール、 エリック・メシュラン

作・演出: パスカル・ランベール

共同演出[静岡公演]: 大岡淳(SPAC 文芸部)

コーラス指導: 戸崎裕子(音楽青葉会)

哲学的テキスト: エリック・メシュラン

出演: エリック・メシュラン、クレマンティーヌ・ペアール、ケイト・モラン、セシール・ミュシテリ、ヴィルジニ・ヴァイヤン

一般参加者: 朝羽純也、落合久信、川口駒貴、小長井涼、小谷野桂子、佐藤萌里、佐野千秋、Sabine Stadler、柴田恵、杉上友紀、杉原可奈子、鈴木綾乃、鈴木久美子、芹澤輝代、濱崎邦子、春野菜緒、本多佐千子、松浦大樹、横山香代子

コーラス: 辻康介、戸崎廣乃、戸崎文葉、蓑島晋  
／ 梅原智代、梅原知里、梅原奈美樹、倉石寛、鈴嶋孝将、高田智佳、土屋佑里香、蓑島洋子、山下浩平  
／ 永井健二(SPAC)



(写真: フランス公演より)

## 公演概要

10月23日(土)、10月24日(日) 両日とも 18:30 開演

フランス語と日本語の2カ国語での上演(日本語字幕有り)

会場: 静岡県舞台芸術公園 野外劇場「有度」(日本平)

上演時間: 90分

■2,000円／高校生以下 1,000円

パスカル・ランベール × 大岡淳 (SPAC 文芸部) × 静岡県民

『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり～』(原題“Une (micro) histoire économique du monde, dansée”)は、フランス・ジュヌビルエ国立演劇センターによる製作で 2010 年 1 月に上演された舞台です。この舞台はフランス人の経済哲学者と女優、そして約 50 名の市民が出演し、未開社会から現代アメリカまでの世界経済史を扱うという驚くべき作品でした。

このたび、本作品の日本版を埼玉、宮崎、そして静岡の 3 都市 / 3 公立劇場で製作することとなりました(※)。出演する一般参加の市民は各地の公募で選出されたアマチュア。総合演出は、原作を手がけ、ジュヌビルエ国立演劇センター芸術監督でもあるパスカル・ランベール。その共同演出として、若手・中堅の日本人演出家 3 名が各地でパスカルと共同創作を行います。

静岡版の共同演出は大岡淳 (SPAC 文芸部)。一般参加者は、大岡のもと、2 ヶ月程のワークショップを通して稽古を重ねます。10 月にフランス人出演者が加わり、パスカルの総合演出がなされたうえで本番となり、10 月 23 日(土)、24 日(日)に舞台芸術公園の野外劇場「有度」で上演されます。



(写真: フランス公演より)

(※)



埼玉公演: 2010 年 10 月 16 日(土)・17 日(日)富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ

宮崎公演: 2010 年 10 月 30 日(土)・31 日(日)メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

<企画・構成・作・演出>

パスカル・ランベール Pascal Rambert

フランス・ジュヌビルエ国立演劇センター芸術監督。1984 年、サイド・ワンポストゥーム・シアターを創設し、作・演出を務める。フランスの主要フェスティバル、劇場のほか、ヨーロッパ、アメリカ、日本での上演も行っている。また、オペラやダンス作品の演出、さらに監督として短編映画も手掛け、マルチな活動を展開している。日本では、『愛のはじまり』(2007)、『演劇という芸術』『自分のこの手で』二本立て公演(2009)に続き、今回が 4 作品目の上演となる。



プロ×アマチュア、一つの舞台へ ～SPAC 県民参加体験創作劇場～

<共同演出 / 静岡公演>

大岡淳 (おおおか・じゅん)

1970 年兵庫県生まれ。演出家・劇作家・批評家・パフォーマー・SPAC 文芸部スタッフ、月見の里学遊館芸術監督、静岡文化芸術大学非常勤講師、はままつ演劇・人形劇フェスティバル 2010 演劇賞審査委員長。地域から発信する、新時代のエンタテインメントを探求中。SPAC での演出作品にハイナー・ミュラー『大人と子供によるハムレットマシーン』、SPAC 俳優による『朗読とピアノの午後』等がある。



SPAC では人材育成事業のひとつとして、地域における舞台芸術活動のより豊かな環境の創出と優れた人材の輩出を目的とした「県民参加体験創作劇場」を1997年より行っています(※)。この事業の特徴は、静岡在住で演劇のアマチュアである県民と、国内外のプロの演出家・スタッフが共同で一つの舞台作品を創作することです。これまでの参加者の中には、その後、プロの俳優・スタッフとして活躍したり、地域での新しい演劇活動を展開している方々も数多くいます。

今年は公募を通じて、静岡県内在住の15歳～73歳の19名の皆さんが集まりました。会社勤めの社会人や学校で演劇指導にあたる教員、地元で活躍する音楽家、文化活動に熱心な主婦、文学を愛好する大学生、作詩好きな高校生など多彩な顔ぶれとなりました。

(※)これまで、宮城聰(現 SPAC 芸術総監督)、渡辺亮史(「劇団渡辺」主宰、SPAC サテライト劇団「劇団静火」演出)の演出による7作品が同事業枠で上演された。

## コーラス×演劇 —静岡在住の文化人がコラボレーション—

この舞台には上記19名の他にも、コーラスとして県民の方々が出演します。今回は、音楽青葉会(静岡市葵区)主宰の戸崎裕子氏の指導・協力のもと、同会に所属するプロの音楽家および合唱団、その他から集まった13名のコーラス出演が予定されています。演劇のアマチュアによる身体表現が、コーラスの歌唱表現と調和し、秋の夜風と相まって、野外劇場に集まった観客を魅了してくれることでしょう。

## 日本平の個性豊かな野外劇場で新しい演劇手法を味わう

世界にただひとつ、「茶畑」を借景にした野外劇場「有度」。風が吹き木々がざわめき、虫の音が聞こえ、時には霧が自然のスモークとなり幻想的に空間を演出します。大自然のなかの上演は、等身大の人間や舞台装置など造形物の存在が際立ち、自然、人間、芸術の関係を広い視野で考える契機にもなります。古代ギリシアから営まれてきた野外劇、その真髄を静岡で本格的に味わうことができます。『世界は踊る』は、最先端の演劇手法を用いた舞台。静岡にしかない野外劇場で、新しい演劇手法をご堪能頂けます。

※原則として、雨天でも公演は行います。

## スケジュール

■一般参加者選考オーディション:2010年4月25日(日)

■稽古

I期:大岡淳によるワークショップ

8月29日(日)、9月12日(日)、19日(日)、23日(木・祝)※、25日(土)、26日(日)、27日(月)※、10月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日) (※印はコーラス出演者のみを対象とした稽古)

場所:舞台芸術公園 稽古場棟

II期:パスカル・ランベールによる稽古(フランス人出演者との合同稽古)

10月18日(月)～22日(金) 18時～22時

場所:舞台芸術公園 野外劇場「有度」

■本番:10月23日(土)、24日(日)18時30分開演

## 資本主義の歴史を問い返すタイム・トラベル・パフォーマンス

大岡淳へのインタビューより

—大岡さんはフランスでこの作品の稽古と本番に立ち会って、「傑作！」と興奮されていましたが、どこに魅力を感じたのですか？

大岡：演出のパスカル・ランベールは、鋭敏な美学の持ち主です。ノンプロを相手にするときでも決して妥協を許さない人であり、また、そこに惹かれて大勢のノンプロが集結していました。

近年、ドイツのリミニ・プロトコルというグループが典型ですが、ノンプロを主役に据えた演劇が、ヨーロッパでは勢いを得ているようです。しかしあの手の作品では、ノンプロは普段のままの状態です。舞台に立つことを求められていると思います。一種のドキュメンタリー演劇なんですね。『世界は踊る』の場合も、ノンプロは役を演ずるわけではないですが、しかし、パスカルの美学によって統率されてもいる。いうなれば、プロの芸術家の視点を媒介として、普段の自分から脱皮した、自分自身の新しい姿をさらしているようなものなんですね。

つまり、プロの芸術家とノンプロの生活者の新しい関係が、作品に強さをもたらしている。この感じは、今まで体験したことがなかったもので、興奮しました。演劇の新しい地平を覗き見たような気がしましたね。

—「経済」がテーマと聞くと、なんだか難しそうなのですが、その点はいかがですか？

大岡：そもそもこの作品が「経済」をテーマとしたのは、パスカルが、家を失って路上に家具を並べて途方にくれている、デトロイトの黒人家族の写真を目にして、なぜこのようなことが起きてしまうのか、疑問に思ったことに端を発しています。この疑問に明快に答えてくれたのが、彼の盟友である哲学者エリック・メシュランだったのだそうです。だったらエリックを舞台に出演させて、経済危機の謎を解くような舞台を作ってしまうといい、ということだったんでしょう。実際この芝居の構成は、エリックとパスカルの共同作業によって創られました。

結果として生まれたのは、資本主義の歴史を総体として問い返すような、タイム・トラベル・パフォーマンスだったといえます。そしてノンプロ出演者は、この世界経済史の主役であったところの、無名の民衆を表象しているように見えました。

インタビューの全文は SPAC ホームページでご覧いただけます。

[http://www.spac.or.jp/10\\_autumn/dansee](http://www.spac.or.jp/10_autumn/dansee)

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

## SPAC 新作

SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクト

# ユメミルチカラ -REVE DE TAKASE-

オーディションによって選ばれた静岡の子どもたちが、  
世界的なダンサー、メルラン・ニヤカムとともに、ダンス作品を創作！

振付・演出:メルラン・ニヤカム

出演:スパカンファン(静岡県内の中学1年生～高校2年生10名)

振付アシスタント:木野彩子

音響デザイン:山貫憲彦

映像:ニシモトタロウ



## 公演概要

9月4日(土) 17:30 開演

9月5日(日) 15:30 開演

会場:静岡芸術劇場

上演時間:75分

■ 3,000円/ペアチケット(2枚)5,000円/大学生・専門学校生 2,000円/高校生以下 1,000円

静岡公演より

### <県内公演>

○9月12日(日) 15:30 開演

会場:磐田市竜洋なぎの木会館(いさだホール)

○9月23日(木・祝) 15:30 開演

会場:伊豆の国市長岡総合会館(大ホール)

■2,000円/高校生以下 1,000円

メルラン・ニヤカム × SPAC-ENFANTS (スパカンファン) × ユメミルチカラ

※ENFANTS=フランス語で「子どもたち」の意味

世界的な振付家・ダンサーのメルラン・ニヤカムを静岡に迎え、県内の子どもたちとともに、静岡独自の新しいダンス作品を創造し、県内公演ツアーにチャレンジしました。

このプロジェクトは、SPACの活動の重要な柱の一つである〈人材育成事業〉の一環として実施されたものです。「世界中の子どもたちが、未来への希望を取り戻せるようなダンス」をコンセプトに掲げ、静岡の子どもたちとともに新しいダンス作品を創造し、公演を行うという「滞在型製作プロジェクト」です。

フランスを中心に国際的な活動を展開するメルラン・ニヤカムは、2010年の夏、およそ1ヶ月に渡り静岡に滞在し、事前のオーディションによって選出された10名の子どもたちとともに、作品創造に取り組みました。

SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクトは、稽古の成果を発表会で披露することを最終目標とせず、世界に発信できるような高いクオリティーの作品を目指します。

SPACでは、SPAC-ENFANTS(スパカンファン)プロジェクトを、今後も実施してゆきたいと考えています。

プロジェクトの詳細は、決まり次第、お知らせいたします。



静岡公演より

〈演出・振付家プロフィール〉

**メルラン・ニヤカム** Merlin Nyakam

ダンサー、歌手、俳優、振付家

ラ・カルバス・カンパニー (Compagnie La Calebasse) 主宰 <http://www.lacalebasse.org/>



その才能は幼少時より花開き、ダンサーとしての経歴は5歳から始まる。14歳でカメルーン国立バレエ団に入団。16歳で首席ダンサーに登りつめる。1990年に「ラ・カルバス・カンパニー」を起し、91年に金の穂賞、最優秀ダンサー賞などを受賞。92年よりフランスに拠点を移し、様々な振付家の作品に出演。97年より、フランスで絶大な人気を誇るモンタルヴォ・エルヴュ・カンパニーに参加、以後すべての作品に出演。その姿はエネルギッシュなシルエットで観客の目に焼き付けられ

る。2000年『遊べ！はじめ人間』を初演。同作品は2007年SPAC主催の「Shizuoka 春の芸術祭 2007」でも上演、翌年2008年にもアンコール公演として上演された。

## ダンスの力で“現代社会を生きることの喜び”を伝える

止まらない不況のなか、様々な混乱を経験した多くの子どもたちが、将来に夢を抱けないでいる——。スパカンファンは“世界中の子どもたちが未来への希望を取り戻すことができるダンス”をコンセプトに作品を創造しました。その結果、未来への大きな夢と希望を抱いた子どもたちの自由な表現によって、すべての人たちへ“生きること”の喜びを伝えることができるダンス作品『ユ メ ミ ル チ カ ラーREVE DE TAKASEー』が誕生しました。

副題である「REVE DE TAKASE」はフランス語で「タカセの夢」を意味します。「タカセ」とは出演メンバー10名のなかの唯一の男の子の名前です。本作品は彼の子どものらしい遊びへの夢から始まります。その夢は、現代的な人間関係や都市環境によって疎外されてしまいます。『ユ メ ミ ル チ カ ラー』では、子どもたちがそうした困難を乗り越えて、「自然と調和した生」を営むまでの過程が、ダンスを通して描かれます。



静岡公演より

## ダンスは技術だけではない——。未経験者含む個性豊かな出演者たち

2010年3月にメルラン・ニヤカムによる出演者オーディションを実施し、10名のメンバーを選出しました。オーディションには静岡県中部、東部、西部各地から多くの子どもたちが参加しました。ダンスの技術を競うだけでなく、ワークショップ形式の課題を通じて、自由に表現する力を披露してもらいました。

最終的に選出された10名(男子1名、女子9名、中学1年生から高校2年生)は、バレエやミュージカルの経験者だけでなく、全くの未経験者も含まれます。その結果、多様な個性をもった子どもたちが舞台に登場することになり、作品がより豊かなものになりました。



メンバーオーディションの様子



静岡公演より

『ユ メ ミ ル チ カ ラー』の情報は SPAC ホームページ、および SPAC-ENFANTS(スパカンファン)ブログでもご覧頂けます。

ホームページ [http://www.spac.or.jp/10\\_summer/yumemiru.html](http://www.spac.or.jp/10_summer/yumemiru.html)

ブログ <http://spac.or.jp/blog/?cat=22>

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail [mail@spac.or.jp](mailto:mail@spac.or.jp)

# インド古典舞踊劇

クーリヤッタムの至宝カピラ・ヴェヌ

その驚くほど豊かな身体表現で、観客を魅了する若き天才舞踊家が  
今年も SPAC にやって来る！

演出:ゴーパール・ヴェヌ

出演:カピラ・ヴェヌ、ナタナカイラリ



## 公演概要

『シヴァの結婚 ～神のころがなびくとき～』 10月16日(土) 14:30 開演

『おさなごクリシュナを探す旅』 10月17日(日)14:30 開演

会場:舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

■ 4,000円／ペアチケット(2枚)7,000円／大学生・専門学校生 2,000円／高校生以下 1,000円

### 次世代を担う世界的舞踊家、昨年に引き続き待望の再公演

カピラ・ヴェヌは20代にしてインド古典舞踊劇であるクーリヤッタムを背負って立つ舞踊家です。その並外れた表現力により、すでに次世代を担う存在として世界的に注目を集めています。過去3回の静岡公演でも多くの観客を魅了し続け、特に、昨年の「Shizuoka春の芸術祭2009」ではチケットが瞬く間に完売となりました。その結果、観劇を心待ちにする多くの方々の声に応えるべく、同年12月に「冬休みSPACファミリー劇場」として、再び静岡芸術劇場にて上演する運びとなりました。「SPAC秋のシーズン2010」では、舞台芸術公園の屋内ホール「楢円堂」での上演です。客席と舞台とが一体となったこの静謐な小空間で、圧倒的なカピラのパフォーマンスを体感していただけます。

< 演出家プロフィール >

**ゴーパル・ヴェヌ**

ナタナカイラリ伝統芸術研究研修センター所長。

1945年、ケララ州(インド南部)生まれ。父が主宰した演劇学校でカタカリを学び、14歳で初舞台を踏む。70年代にクーリヤッタムの「最後の巨匠」と呼ばれたアマヌール・マダバ・チャキヤール師に出会い、自らの生涯を賭けてクーリヤッタムを守っていくことを決意する。クーリヤッタムの師たちを説得し、75年、一般人がクーリヤッタムを学ぶことができる初の研修所ナタナカイラリを設立、ヒンドゥー教寺院以外での公演を実現。82年、自らクーリヤッタムを学ぶことを決意し、2年後に俳優としてもデビュー。79年からクーリヤッタムの海外公演を盛んに行い、世界20カ国に紹介してきた。2007年、クーリヤッタムの保存・普及活動における功績に対して日経アジア賞を受賞。

< 出演者プロフィール >

**カピラ・ヴェヌ**

舞踊家。今日、最も優れたクーリヤッタム／ナンギヤール・クートゥーの踊り手の一人。1982年、ケララ州(インド南部)生まれ。7歳から舞踊学校ナタナカイラリでアマヌール・マダバ・チャキヤール師と父ゴーパル・ヴェヌにクーリヤッタムを学び、9歳でデビュー。92年から毎年、ナタナカイラリ主催のクーリヤッタム・フェスティバルに出演している。クーリヤッタム以外にも、女性舞踊モヒニヤッタムを母ニルマラ・パニカーから学び、国際交流基金アジアセンターの助成を得てカタカリのネトラビナヤ(眼による感情表現)を習得。武術カリパヤットやヨガにも造詣が深く、近年では舞踏家田中泯とのコラボレーションも頻繁に行っている。97年以降、アジア・ヨーロッパ・アフリカで海外公演も数多く、SPAC芸術総監督宮城聰とは2006年にケ・ブランリー国立博物館(パリ)付属劇場のこけら落とし公演で出会った。2008年、09年の「Shizuoka春の芸術祭」では、その繊細な表情と、驚くほど豊かな身体表現において大きな反響を呼んだ。

**「クーリヤッタム」「ナンギヤール・クートゥー」とは？**

クーリヤッタムは現存する世界最古のサンスクリット劇です。その歴史は少なくとも10世紀まで遡ることができ、日本の歌舞伎と並び称されるインド古典舞踊劇カタカリの原型ともなりました。元来はインド南部ケララ州のヒンドゥー寺院内の専用劇場で、特定のカーストに属する俳優と演奏家によって上演されていました。ミラーヴと呼ばれる壺でできた打楽器の伴奏にあわせて、仏教の声明にも似た節回りで台詞が朗唱されます。クーリヤッタムの最大の特徴は、ムドラと呼ばれる複雑なジェスチャーと多様な表情の使い分けにあります。2001年、ユネスコにより「世界無形文化遺産」に指定されました。ナンギヤール・クートゥーは、クーリヤッタムから派生した劇形式で、同じくらい長い歴史をもちます。クーリヤッタムが複数の俳優・女優によって演じられるのに対して、ナンギヤール・クートゥーでは一人の女優(かつてはナンギヤールというカーストに属した女性)がすべての役を演じます。クーリヤッタムの戯曲の一部を元にした作品が多いが、台詞はクーリヤッタムよりも音楽的だと言われます。

**※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。**

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

# SPAC 俳優による 朗読とピアノの午後

SPAC の俳優が選んだ“あなたに届けたい言葉”と  
一流ピアニストによるピアノ演奏のコラボレーション  
舞台とは一味違う俳優の魅力を堪能できる好評企画！

## 公演概要

**11月20日(土)**

出演: 永井健二(長田弘『世界はうつくしいと』より)

若宮羊市(カレル・ジブラーン『プロフェット』)

ピアノ: 渡会美帆

**11月21日(日)**

出演: 奥野晃士(浅田次郎『壬生義士伝』)

ピアノ: 栗田文資

**12月18日(土)**

出演: 木内琴子(白州正子『能の物語』)

吉植荘一郎(岡本綺堂『半七捕物帳』より)

ピアノ: 栗田文資

**12月19日(日)**

出演: 布施安寿香(ファン・ヘルマン『価値ある痛み』)

いとうめぐみ(未定)

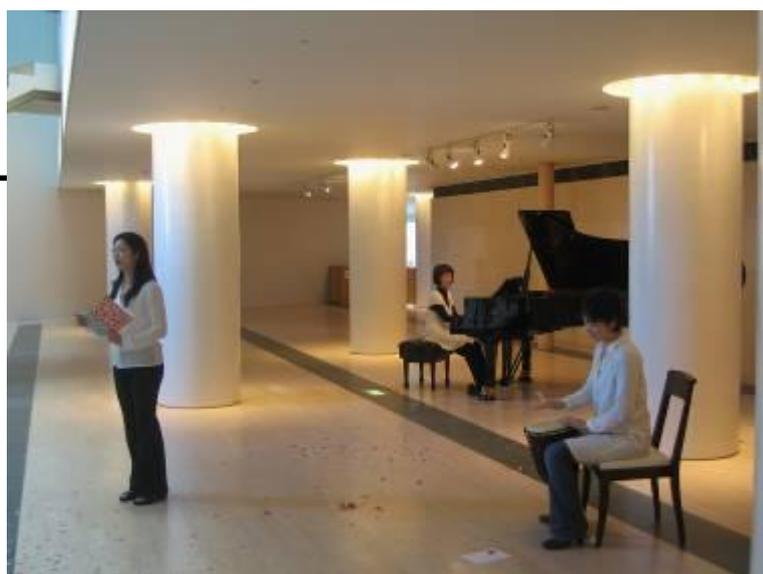
ピアノ: 渡会美帆

各日 15:00 開演

構成・演出: 大岡淳

会場: 静岡芸術劇場 1 階ロビー

■1,000 円(ワンドリンク付き)



### **俳優の個性が親密な空間で楽しめる**

詩、小説、エッセイなど、俳優が自ら選んだ作品の朗読を、ピアノの調べとともにお楽しみいただけます。「朗読」とひとくちに言っても、俳優によって趣向はさまざまです。芝居仕立てになっていたり、歌ったり、踊ったり、ときには俳優も楽器を演奏したり… とそれぞれの持ち味を活かして上演します。静岡芸術劇場の1階ロビーという親密な空間だからこそ、俳優の個性、その魅力がご堪能いただけます。

### **終演後は俳優と歓談**

終演後にご利用できるワンドリンクチケットがついています。静岡芸術劇場内「カフェ・シンデレラ」でお飲物を飲みながら、直接俳優と歓談することができます。お客様からは、俳優に作品の感想をじかに伝えられる貴重なひととき、とご好評をいただいています。

■静岡県立美術館ロダン館で出張公演を行いました。

『ロダンと朗読とピアノの午後～初秋の夢のひとつ～』 夏目漱石「夢十夜」ほか

構成・演出：大岡淳 出演：奥野晃士、石井萌水 ピアノ：仲道祐子 日時：9月13日(月)15:30 開演

---

※本公演についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当：鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

# う ど 有度サロン 2010 秋期

SPACでは、芸術・思想・社会科学など、さまざまな領域で活躍する芸術家・批評家・研究者などが集い、知的情報を交換しながら討議を行なうための場＝<有度サロン>を2008年度より開催しています。この<サロン>は鈴木忠志(前SPAC芸術総監督、演出家)と、その呼びかけに賛同した五十嵐武士(政治学者)、磯崎新(建築家)、柄谷行人(評論家)、坂部恵(故人、哲学者)の各氏を発起人とするものです。

2010年秋期では、「有度サロン公演」と題して『早池峰岳神楽』『リア王 4カ国語版』の2演目を上演し、また公開講座を行います。

## 有度サロン公演

# 早池峰岳神楽 (はやちねたけかぐら)

500年の伝統をもつ早池峰岳神楽(岩手県)  
2009年にユネスコ「無形文化遺産」に登録され、  
ますます注目が集まるなか、待望の静岡公演！

出演: 早池峰岳神楽保存会

日時: 12月4日(土)17:00 開演

会場: 舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」

上演時間: 60分

■ 4,000円/ペアチケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生  
2,000円/高校生以下 1,000円

岩手県花巻市大迫町に500年以上前から伝わりと言われる早池峰神楽。そのなかでも岳神楽は、早池峰山にもっとも近い地区で継承され、早池峰の神を奉る早池峰神社の奉納神楽です。1976年に国の重要無形文化財に登録され、2009年には国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に登録されています。

この「ニッポンの神楽」を日本平中腹にひろがる舞台芸術公園の屋内ホール「楢円堂」で上演します。<有度サロン>の発起人の一人である建築家・磯崎新によって設計された「楢円堂」は、同じく<有度サロン>の発起人の一人である哲学者の坂部恵が「胎内でも、太古の墓場でもあるような、何とも不思議な雰囲気空間」と評したように、神秘的な劇場として評判をいただいています。

500年の時を越えて、「楢円堂」という静謐な空間で舞われる奉納神楽——。日常生活から遠く離れて、昔の日本に思いを巡らせるような、非日常の体験が期待されます。



有度サロン公演

# リア王 4カ国語版(ドイツ・アメリカ・韓国・日本)

世界が絶賛した鈴木忠志の名作

4カ国の俳優が火花を散らす国際劇団 SCOT による上演



演出:鈴木忠志 原作:シェイクスピア 出演:SCOT

日時:12月11日(土)16:00開演

会場:静岡芸術劇場

上演時間:100分 日本語字幕有り

■4,000円/ペアチケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生 2,000円/高校生以下 1,000円

SPAC初代芸術総監督・鈴木忠志の『リア王』は世界中で繰り返し上演され、絶賛されて来ました。この『リア王』を、スズキ・トレーニング・メソッドを体得したドイツ、アメリカ、韓国、日本の俳優による4カ国語版で上演します。

演出家より

## 世界は病院である

鈴木忠志

世界あるいは地球上は病院で、その中に人間は住んでいるのではないか、私は、この視点から、多くの舞台を創ってきた。ということは、多くの戯曲作家は人間は病人であるという視点から、人間を観察し、理解し、それを戯曲という形式の中に表現してきたのだ、と私が見做していることになる。戯曲作家の中には、それは困った考えだという人もいるかもしれないが、優れた劇作家の作品はこういう視点からの解釈やその舞台化を拒まないというのが、私の信念になっている。それゆえ、ここ数年の私の演出作品は舞台上のシチュエーションがほとんど病院になっている。それも単なる病院ではなく、精神病院である。

このシェイクスピアの『リア王』を素材にして演出した舞台も例外ではない。主人公は家族の絆が崩壊し、病院の中で孤独のうちに死を待つしかない老人である。その老人がどのような過去を生きたのか、その老人の回想と幻想という形式をかりて、シェイクスピアの『リア王』を舞台化したのがこの作品である。舞台の進行、あるいは物語の展開をこういう形式にしたのには理由がある。シェイクスピアの描いた作品『リア王』の中から、老人の孤独感とそれゆえに精神的な平衡、あるいは平静さを失う人間の弱さや、惨めさに焦点をあて、それは時代や民族の生活習慣を超えて普遍的な事実なのだということを強く主張しようとしたためである。つまり、イングランドの王リアという時代と空間において特殊に規定された人がすさまじい孤独と狂気を生きたのではなく、老人というものが、いつの時代でも、どこの国でも、リア王と同じような孤独と狂気の人生を生きる可能性があることを示そうとした私の演出上の作戦である。そのために、シェイクスピアの原作そのものの一面だけが極度に強調され、私流に編集されている。そのことをして、これはシェイクスピアではないと言われればその通りだが、優れた文学作品がいつもそうであるように、時代や民族のちがいを超えて、人に人生を考えるための糧をあたえつづけたという意味では、その偉大さは十分に敬意が払われたと了解してもらい以外にはないだろう。

さきほど私は、人間はすべからず病院にいると言った。人は病院である以上、医者や看護婦がいると考えるだろうし、病人の病気は回復の希望があるだろうと考えるだろう。しかし、世界あるいは地球全体が病院だと見做す視点においては、この考えは成り立たない。看護婦も病人そのものであるかもしれないのである。そして病気をなおしてくれる医者という存在は、存在すらしていないかもしれない。

では、医者も看護婦もいないとすれば、だれが病人かすら分からないではないか、という疑問が生ずる。まったくその通りである。しかし、人間は医者や看護婦の存在や助けを借りないでも、自ら率先して自分を含めた人間は病人なのではないかという疑いを持ち続けることはできる。私はこの疑いを持つ人たちが優れた芸術家として存在してきたし、なぜその疑いを持ったのかを公に発表したのが作品と呼ばれるものだと考えている。

私も私自身が病人ではないかと疑っている。そして、その原因はなにに起因しているかを絶えず考え続けている。その考察あるいは分析の結果のひとつが、シェイクスピアの『リア王』に刺激を受けて創ったこの『リア王』である。

世界あるいは地球全体が病院である以上、快癒の希望はないかもしれない。しかし、いったい人間はどういう精神上の病にかかっているのかを解明することは、それが努力として虚しいことになるとしても、やはり現代を芸術家(創造者)として生きる人間に課せられた責務だと信じている。

### 有度サロン公開講座

12月5日(日)10:30 開始 島田裕巳(宗教学者)、島藺進(東京大学教授・宗教学)、他

12月12日(日)10:30 開始 柄谷行人(評論家)、山口二郎(北海道大学教授・政治学)、他

会場: 舞台芸術公園 屋内ホール「楯円堂」 聴講料: 500円

詳細は決まり次第 SPAC ホームページでご覧いただけます。 <http://www.spac.or.jp/>

# SPAC 秋のシーズン 2010 関連企画

SPACでは、演劇作品の創作・上演とともに、さまざまなアウトリーチ活動を行っています。

## SPAC芸術街道★リーディング・カフェ・ツアー

2010年4月からはじまった「SPAC芸術街道★リーディング・カフェ・ツアー」は、静岡県下の宿場町22カ所+αにSPAC俳優が出張し、「リーディング・カフェ」を開催するという企画です。「リーディング・カフェ」とは、俳優の案内のもと、参加者ひとりひとりが輪読形式で声に出して台詞を読む、という企画です。カフェやレストラン、美術館やギャラリーなど、これまでもさまざまな場所で開催しており、ご好評をいただいています。コーヒーや紅茶を飲みながら、気軽に演劇体験を味わっていただけます。

### 読む戯曲：『しんしゃく源氏物語』（榊原政常作）

光源氏が寵愛した不美人・末摘花<sup>すえつむはな</sup>は古風な教育を受けた頑固で一途な姫です。当初は源氏の君もその器量の悪さにあきれられるほどでしたが、君を慕う心は人一倍強く、晩年は寵愛を受けました。『しんしゃく源氏物語』は、源氏の君が末摘花のもとを離れて久しい時期の話です。君をひたすら待ち続ける姫の姿と、それに翻弄される周囲の人々が、ユーモラスに描かれています。

#### ■江尻宿 静岡県立中央図書館presents

11月16日(火)15:00～

会場：静岡県立美術館café Rodin

(〒422-8002静岡市駿河区谷田53-2 県立美術館内)

参加費：500円 予約：静岡県立中央図書館企画部 TEL.054-262-1246



#### ■掛川宿

11月23日(火・祝)13:30～

会場：ギャラリー・de・カフェ Serendipity salon

(〒436-0087静岡県掛川市大多郎39)

参加費：6,300円(ワンドリンク、ケーキ、12月5日(日)14:00『しんしゃく源氏物語』チケット代込み)

予約：ギャラリー・de・カフェ Serendipity salon TEL090-4266-4470

以下の「リーディング・カフェ」は盛況のうちに終了しました。(2010年9月17日現在)

#### ■三島宿

9月10日(金)18:00～

会場：三島市民会館

#### ■見附宿

9月11日(土) 19:00～

会場：大の瀧酒店倉庫

#### ■修善寺温泉

9月15日(水)13時30分～

会場：修善寺新井旅館

## 宮城聡と俳優たちが選ぶ21冊の本フェア

宮城聡 (SPAC 芸術総監督) と SPAC の俳優たちが選んだ推薦図書が戸田書店静岡本店の店頭には並んでいます。俳優のプロフィールと、推薦の理由を掲載したパネルを展示し、観劇とは違った角度から「SPAC の俳優」について関心を持っていただけることと思います。戸田書店静岡本店は、静岡駅前の葵タワー内にある静岡県最大クラスの書店です。この店舗で特集フェアを開催することで、SPAC についての認知を促す効果が期待されます。また同時に、演劇関連書も併せて陳列され県内演劇ファンには格好のスペースとなるでしょう。

会場: 戸田書店静岡本店 2 階 特設コーナー

(〒420-0852 静岡市葵区紺屋町 17-1 葵タワー2F・1F・BF、TEL. 054-205-6111)

期間: 9 月 18 日(土)～10 月 17 日(日)

営業時間: 10 時～21 時

## 「国民読書記念フォーラム 2010！しずおか」ゲスト出演

「国民読書記念フォーラム 2010！しずおか」に SPAC の俳優がゲスト出演し、パフォーマンスを行います。

日時: 11 月 27 日(土) 13:00～16:00

料金: 無料(定員 800 名)

申込方法: 静岡県立中央図書館企画振興課「国民読書記念フォーラム係」まで以下のいずれかの方法でお申込みいただけます。

- ① TEL: 054-262-1246
- ② E-mail: webmaster@toshokan.pref.shizuoka.jp
- ③ FAX: 054-264-4268
- ④ 来館

※ FAX、E-mail の場合は件名を「国民読書記念フォーラム」とし、氏名(ふりがな)、連絡先、電話番号を記入して送信してください。

詳細は決まり次第 SPAC ホームページでご覧いただけます。

<http://www.spac.or.jp/>

---

※関連企画についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当: 鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

### 劇評関連事業

SPAC では、観劇から得た所感や思念をもとにした批評活動を促進するため、劇評関連事業を設けています。「SPAC 秋のシーズン 2010」では「劇評ワークショップ」と「深蒸し茶流 劇評塾」を実施します。

## 劇評ワークショップ

### SPAC 文芸部対談

### 大澤真幸(社会学者)×大岡淳(評論家・演出家・パフォーマー)

「秋のシーズン 2010」では『わが町』を課題演目とし、「劇評ワークショップ」を開催します。「劇評ワークショップ」では、課題演目をご観劇いただき、事前に劇評を提出していただきます。これをワークショップ参加者全員がお互いに読み、意見交換を行います。SPAC 文芸部が講師として劇評の書き方／読み方を指導します。

このたびのワークショップでは、SPAC 文芸部から大澤真幸と大岡淳が参加し、2 人の対談形式で進めます。大澤真幸は日本屈指の社会学者です。鋭い問題提起と精緻で独自の理論には定評があり、その思索は「大澤社会学」とよばれ多くの読者を魅了し続けています。大岡淳は評論家、演出家、パフォーマーとさまざまな顔をもつマルチ活動家です。袋井市月見の里学遊館の芸術監督でもあります。

この 2 人の劇評をめぐる議論は、演劇だけにとどまらず、社会や歴史など多くの分野にわたって展開することが期待されます。観劇から得た感慨や疑問を解きほぐす機会を提供できればと思っております。聴講のみの参加も歓迎しています。

- 課題演目：今井朋彦演出『わが町』
- 開催日時：12 月 3 日(金) 19:00
- 会場：静岡芸術劇場ホワイエ
- 参加料金：無料
- お申込み：11 月 24 日(水)までに E-mail で『わが町』の劇評をお送りください。件名を「劇評ワークショップ」とし、名前、電話番号、住所をお知らせください。劇評は事前に参加者全員に配布します。聴講のみをご希望の方はその旨を明記してください。

E-mail: mail@spac.or.jp



## 深蒸し茶流 劇評塾

「SPAC 秋のシーズン 2010」上演作品の劇評を募集します。すべての劇評に SPAC 文芸部(大澤真幸、大岡淳、横山義志)が講評します。入選者と準入選者の劇評は SPAC ホームページに掲載されます。ここで3回入選した投稿者は卒業となり、プロの書き手としての活動を SPAC が応援します。

- 字数: 2,000 字程度
- 締切: 批評対象の舞台を観劇した5日後必着
- 投稿方法: E-mail または FAX、郵便(封書)。メールの場合は件名欄に、FAX の場合は1ページ目の冒頭に、郵送の場合は封筒の表書きに、「投稿劇評」と必ず書いてください。
- 原稿には、住所、氏名(ペンネームの方は本名・ペンネーム両方)、電話番号等複数の連絡先、観劇日を明記してください。
- 入選者には原稿料 10,000 円をお支払いし、SPAC ホームページに劇評を掲載します。SPAC の公演に1回分ご招待します。準入選者も SPAC ホームページに劇評が掲載されます。ただし原稿料はありません。

これまでに採用された劇評は SPAC ホームページでご覧いただけます。

<http://spac.or.jp/critique/>

---

※劇評事業についてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp

## SPAC 秋のシーズン 2010

### チケット情報

#### 前売り開始

■ 2010 年 9 月 12 日(日)10:00～ 『令嬢ジュリー』『わが町』『しんしゃく源氏物語』『インド古典舞踊劇』『早池峰岳神楽』『リア王』『SPAC 俳優による朗読とピアノの午後』『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり～』『有度サロン公開講座』

■ 2010 年 7 月 25 日(日)10:00～ 『ユメミルチカラ-REVE DE TAKASE-』 ※公演は終了しています。

#### チケット料金

■ 『令嬢ジュリー』『わが町』『しんしゃく源氏物語』『インド古典舞踊劇』『早池峰岳神楽』『リア王』

[一般 1 演目]4,000 円 [ペアチケット(2 枚)]7,000 円

■ 『ユメミルチカラ-REVE DE TAKASE-』

[一般 1 演目]3,000 円 [ペアチケット(2 枚)]5,000 円

■ 『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり～』

[一般 1 演目]2,000 円

■ SPAC 俳優による『朗読とピアノの午後』 1,000 円(ワンドリンク付き)

■ 『有度サロン公開講座』 500 円

学割: [大学生・専門学校生]2,000 円 [高校生以下]1,000 円

#### ゆうゆう割引:

SPAC では 70 歳以上の方を対象とする「ゆうゆう割引」を行っています。一般チケットもしくはペアチケットが 1 割引となります。

#### 購入方法

■ 電話予約 SPAC チケットセンター TEL: 054-202-3399 (受付時間/10:00～18:00)

■ 窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター(受付時間/10:00～18:00)

■ ウェブ予約 <http://www.spac.or.jp>

■ 携帯電話からの予約 <http://www.spac.or.jp/m/>

■ セブン-イレブンでの販売 店内マルチコピー機

※ ご予約の受付は公演前日の 18 時までとなります。

当日券: ※当日券の有無は公演当日に必ずお電話にてお確かめください。

<静岡芸術劇場での公演>

公演当日朝 10 時より、静岡芸術劇場チケットカウンターで販売します。

<舞台芸術公園での公演>

開演の 1 時間前より、会場となる劇場の受付にて販売します。

## SPAC 秋のシーズン 2010

### 好評の観劇ツアー無料バス、今回も運行！

SPAC では、交通手段の利便性を考慮し、無料バスを運行しております。「交通費の負担が大きい」「劇場までの足がない」等の交通手段に対するお客様の声にお応えしています。特に遠方より来場されるお客様のために、この秋には、東京、浜松、三島・富士から無料バスを運行します。

乗車するバスの運行日の公演チケットをご購入のお客様にかぎり、先着順でご利用いただけます。

#### ●東京バス

・『令嬢ジュリー』10月3日(日)

・『わが町』10月31日(日)

・『しんしゃく源氏物語』

11月28日(日)

9:30 渋谷発

→13:00 静岡芸術劇場着

#### ●浜松バス

・『わが町』11月14日(日)

・『しんしゃく源氏物語』12月5日(日)

11:30 浜松発

→13:00 静岡芸術劇場着

・『世界は踊る』10月24日(日)

16:00 浜松発

→17:30 舞台芸術公園着

#### ●三島・富士バス

・『令嬢ジュリー』10月10日(日)

・『わが町』11月7日(日)

11:30 三島発

→12:00 富士経由

→13:00 静岡芸術劇場着

※復路の便は、終演 20 分後に、各会場より出発します。

#### ○集合場所・時間

[東京バス] 青山学院大学青山キャンパス正門前

[浜松バス] JR 浜松駅北口(アクトシティ裏)

[三島・富士バス] JR 三島駅北口/JR 富士駅南口

**集合時間** 出発時刻の 15 分前

#### ○申込方法

無料バスへの乗車を希望する方は 1) 氏名(ふりがな)、2) ご希望の日(にち)、3) 人数、4) 当日ご連絡が取れる電話番号、5) 往復か片道か、片道の場合は往路か復路か、を電話または E-mail (bus@spac.or.jp) にてご連絡ください。E-mail の件名には「〇〇バス希望」とご記入ください。

[電話] SPAC チケットセンター Tel.054-202-3399 [E-mail] バス予約専用アドレス bus@spac.or.jp

- 無料バスは定員になり次第、締め切らせていただきます。
- 観劇予定のチケットは必ずバス予約の前に電話・窓口・ウェブにてご予約ください。
- 到着時間は概ねの時間帯です。出発時間、交通状況により大幅に変更となる場合もございますが、責任は負いかねます。予めご了承ください。
- 事情により、集合時間、行程を変更する場合があります。
- バス移動の際、車内禁煙、シートベルト着用とさせていただきます。ご協力をお願いします。

※チケット、無料バスについてのお問い合わせ、取材のご希望、ならびに「SPAC 秋のシーズン 2010」についてのお問い合わせは「SPAC-(財)静岡県舞台芸術センター 広報担当:鳥居」までお願いいたします。

Tel 054-203-5730 / Fax 054-203-5732 / E-mail mail@spac.or.jp